

答 辞

肌を刺す冬の寒さが和らぎ、春の訪れを感じる季節となりました。

本日は私たち第七十八期生のために素晴らしい式典を挙行してくださり、誠にありがとうございました、ございます。ご多忙の中、ご臨席下さいました、先生方、保護者の皆様、職員の皆様、並びに来賓の皆様へ、卒業生一同心より御礼申し上げます。

私たちは新型コロナウイルスが流行し始めた二〇二〇年に山脇学園に入学し、武家屋敷門をくぐれたのは、入学二ヶ月後でした。行事も中止や縮小が続き、思い描いた学園生活とは程遠い日々を過ごしました。それでも、中学三年生では修学旅行やミニ体育祭・合唱祭などの行事を実施でき、制限の中でも少しずつ日常を取り戻せるようになりました。当たり前の日常のありがたさを強く実感した中学生生活でした。

高校生となり、中学生の頃とは違う自分たちになろうという意識の変化が起こり始めた頃、山脇学園にも以前の活気が戻ってきました。高校一年生時には、初めて自分たちだけで立案・実行したクラス企画を含む夏季学校や外部の方を招いての文化祭など、多くの行事を経験できました。時には意見の衝突がありながらも、他者を尊重し共に一つのことを作り上げることの大切さを学び、互いに高め合う意識が学年に生まれ始めました。

高校生活で思い出に残っているのは、体育祭で二年連続で掴み取った学年優勝です。高校二年生では、体育委員の熱心さに突き動かされ、体育祭に本気で取り組み、優勝旗を掴み取れました。練習から本番にかけての仲間の本気度や優勝した時に飛び跳ねながら喜ぶ姿を今でも鮮明に覚えています。それまでは優勝を半ば諦

めていましたが「なんだ、やればできるじゃん私たち」と思い、自信が生まれました。

高校三年生でも全身全霊で体育祭に臨みました。ペルシャでは、はじめ気持ちも踊りもバラバラでしたが、仲間と作り上げる最後の作品だから悔いのないように踊りたいという気持ちから一人一人が必死に取り組んだことで、周りの人をも感動させるペルシャにすることができたと思います。その中で作り上げた「煌」の文字は、苦難を乗り越え力強く前進したいという思いを込めた文字です。

私は改めて山脇学園で多くの素敵なお友達に出会い、互いに良い影響を与える学年に成長できたことを誇りに思います。仲間と共に歩んできたからこそ受験という逆境も乗り越えられました。それぞれがこの一年、辛い経験をしてきました。それでも、「あの子も頑張っているから私も頑張ろう」と思えました。この気持ち卒業後も私たちを支えてくれて、仲間の存在を胸に自分の道を歩んでいけると思います。こうした絆は、伝統という形で後輩に受け継がれていくと思います。後輩の皆さん、どんな困難にぶつかっても、学年の垣根を越え皆で乗り越えていけるような温かい学園を作り上げていってください。

私にとって何よりかけがえないものは、友達が近くについて皆が笑い合っている変わり映えのない日常の光景です。仲間がいるだけで安心し、励まされ何倍も努力できました。皆どの沢山の思い出は大切な宝物です。私たちは本日ももって山脇学園を卒業し、苦楽を共にした仲間と別れを告げ、各々の道を歩んでいきます。寂しいですが私たちは一人ではありません。私たちの絆は一生物です。私たちは一人一人が目標に向かって努力できる力を持っています。学園で培った絆を胸にどのような環境でも懸命

に努力し、美しく舞う桜のように、それぞれの道で舞い輝けるよう精進して参ります。

六年間、成長できたのは先生方の存在があったからです。私たちのことを考え時に厳しく、温かくご指導いただき、私たちは真つ直ぐ歩んでくることができました。また、学園生活を支えてくださった事務の皆様、用務員の皆様、守衛の皆様、並びに快適な学園生活のために日々支えてくださった全職員の皆様に御礼申し上げます。

そして、この十八年間最も身近で支えてくれた家族へ。いつも誰よりも親身になってくれたこと、毎日朝早く起きてお弁当を作ってくれたこと、夢を応援してくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。卒業を迎えることができたのも家族の支えがあったからです。沢山の心配や苦勞をかけましたが、ここまで育てて頂き本当にありがとうございます。これから私たちの成長を温かく見守っていてください。

最後になりましたが、新たな出会いと多くの経験をくださった山脇学園に心からの感謝を申し上げると共に、本日ご来校頂きました皆様のご多幸と学園の更なる発展を祈念いたしまして、答辞といたします。

令和八年三月七日

山脇学園高等学校

第七十八回卒業生総代